

令和3年度奨学生 留学体験記 (2022年8月～2023年6月イタリア)

約一年間、私はイタリアに居て三ヶ月前にようやく日本に帰ってきました。まだ私は高校生ですから、言ってしまうと、全人生の十八分の1をイタリアで過ごしたわけです。こう言う私にとっての留学がどれほど大きい存在なのか想像つくと思います。では、いざ日本に帰ってきてどうだろう？と考えると、意外にもあまり自分自身変化は感じません。一年ぶりの日本は行く前と何も変化がなく、イタリアの究極の非日常という夢から醒めたかのように、私は日本の日常にすーっと溶け込んでいます。けれど、だからと言って留学に意味がなかったと言いたいわけでは当然なく、むしろ、イタリアに居た1年間は、私にとって人生最高の忘れられない信じられないような1年でした。美術館や教会を毎週のように巡って、沢山美味しいものを食べて、信じられないくらい沢山の人と出会いました。日本では絶対出逢えないような個性溢れる人たち、戦争から逃れてきた人たち、家族の為に単身イタリアンドリームを叶えにきている人、いろいろな人と出会って喋りました。今も連絡を取り合い、再会を誓うような親友もできました。1日がとても長くて驚きに満ちていて、それでいて日々が過ぎていくのは本当にあっという間な1年間でした。行く前は長く感じていた1年間ですが、思い返してみると本当に瞬きする一瞬に収まるような短さです。でも、不思議と自分自身の変化はあまり感じません。実際のところ、きっと私は変わったはず。変わってないきゃおかしいはず。けれど、留学でなにが変わった？と聞かれてすぐ答えられる様な変化はありません。強いて言うなら今の私には第二の家があって多くの友がいて、挫折と成功の経験から来る自信がある。くらいです。と言うのも、私が思うに留学で得るものは変化ではなく成長だと思うからです。過去を変えるのではなく、留学時点の自分から想像できなかった自分の延長線上に留学後あなたはいます。留学を通してあなたはきっと色々な異国の養分をもらって素敵なあなたに成長できます。もし、留学をしようと思っているなら絶対にしてください、お金がないなら私の様に奨学金を使って国をでてみてください。きっと後悔しないはず。自分の未来に賭けてください。なにがあっても自分を誇れる様な部分があなたの中にできるはず。私の十八分の1のイタリアンパートが常に輝いているように。

